

総合計画審議会部会審議等における発言の要旨

(平成25年12月 第1回部会審議)

(平成26年 5月 第2回部会審議)

(平成26年10月 第3回部会審議)

(環 境 部 会)

山梨県総合計画審議会

政 策	発 言 要 旨	備 考
<p>1 自然力を活かしたクリーンエネルギーの導入促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水力発電をしても川の水は減らず引き続き利用可能であることから、山に囲まれた地形や豊富な水量を生かし、川の水を水力発電に利用すべきである。 ○ エネルギー利用について、電気の利用に特化されているが、太陽光内の熱利用や地中熱、バイオマスの利用についても政策に取り入れてもらいたい。 ○ 県民は恵まれた自然の良さをわかっていないことが多いように思われるので、環境教育に力を入れて郷土愛を育むことが必要である。 ○ 2050年までに山梨県の電力を全てクリーンエネルギーで賄うという施策は大変良いと思う。 ○ 農家と太陽光発電関係者との間でトラブルとなることがないように、条例や法令の整備を考えてもらいたい。 ● 太陽光発電パネルについて、空き地への設置が景観を損ねている。 ● 太陽光発電のパネルが景観を損ねているという話を聞くが、クリーンエネルギーの推進と景観とのバランスがとれる方法を考えてもらいたい。 □ 愛宕山に太陽光発電設備が設置されているが、農業委員からは太陽光発電設備を作り森林を破壊すると水が出て土砂災害の恐れがあるという話もでていいる。災害になった時の県の対応を聞かせてもらいたい。 □ メガソーラーの設置については、環境面だけではなく、安全対策や防災面も含めて検討してもらいたい。 □ 熱エネルギーも含めた再生可能エネルギーの活用により、「CO2ゼロ」山梨の実現を目指してもらいたい。 	
<p>2 地球にやさしい省エネライフの推進と循環型社会の形成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 峡北・峡中等の5つの地域ごとに、地域で出たごみを自分たちで処理すべきである。 □ 家庭からの廃棄物は生ゴミが多いが、焼却処分している自治体がある。焼却処分は石油量が非常に多くなるので、分別収集などの取り組みを進めてもらいたい。 □ 温暖化対策は県民ひとりひとりの小さな積み重ねであり、分別収集等を行って、地域の資源を生かしていくという意識を県民が持たなければならない。 □ 生ゴミ以外はほぼ資源ゴミだと考えられることから、ゴミの回収システムを見直すべきである。 □ 山梨県地球温暖化防止活動推進員による地域活動と企業や行政の取り組みとが一体となる仕組みづくりやネットワーク構築への支援を要望する。 □ 生ゴミや紙類等の減量によるCO2の削減は温暖化対策として効果的だと考えられることから、市町村や企業、住民が連携した取り組みの拡充を希望する。 □ 農業分野の温暖化対策として、耕作放棄地で地産地消を進めてフードマイレージ対策を行う取り組みを推進してもらいたい。 	

政 策	発 言 要 旨	備 考
<p>3 活力ある林業の振興と豊かな森林の保全</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「県産材流通対策の強化」について、県の頑張りを感じるが、成果が出るのが遅いところが残念に思う。 ● 森林に関する施策について、県が考えて、森林組合や市町村が実行するという形にすべき。 ● 豊富な森林資源を生かし、県には「子育ての森づくり」のような施策にチャレンジしてもらいたい。森林に子どもの時から関わりを持つことは非常に大事なことである。 □ 県産材の消費拡大のため、地域の木材を活用してCO2を削減する地産地消の取り組みを強化してもらいたい。 	
<p>4 自然と調和した美しい農山村づくりの推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 行政による規制がかかり、事業に縛りが多いため、住民説明会など住民とのコミュニケーションがとれる施策が必要である。 ○ シカの数を通正規模にするため、民間の事業者と県とが連携できればよいと思う。シカと人間との共存モデルを全国に発信していきたい。 ○ 鳥獣害対策の柵の設置について、峡南地域は多く、北杜市は少ないなど格差があるが、設置箇所の決め方を知りたい。 ○ 北杜市はサルの被害が少ないと言われているが、増富から明野にかけてサルの被害は相当でている。 ○ 耕作放棄地について、就農希望者に対し、基盤整備情報を伝え公募を行うのが最もフェアな方法だと考える。 ○ 鳥獣害防止について、十分対策を考えてもらいたい。 ○ 地産地消や食育に資することから、捕獲したシカ肉を学校給食で提供してもらいたい。 ● 鳥獣害について、民間団体や住民が鳥獣の管理をする際に県からの支援がほしい。 ● 食肉解体施設が身近にあれば、狩猟をツーリズムにつなげて仕事にするという若者が増えるのではないか。 ● 鳥獣害防止について、言葉だけでなく、目に見える成果をだしてもらいたい。 ● 学校給食でも食育に力を入れているので、捕獲されたシカやイノシシについて、給食での摂取など上手に利用してもらいたい。 	

政 策	発 言 要 旨	備 考
5 快適で美しい環境の保全	<ul style="list-style-type: none"> ○ 総合計画で環境教育が柱に据えられている例は全国にほとんどなく、山梨県が取り組めば大きな注目を集める。 ○ 環境に関する政策に環境教育を入れ込むことで、環境教育の推進につながる。 ○ 山梨の上流域をきれいにするためにも、合併浄化槽による汚泥処理対策等について条例整備等を行う必要がある。 ○ 環境と一口で言っても様々な要素があり、全ての項目を実行に移すことで山梨は環境県にふさわしい県となる。 ○ 山中湖をマリモが住める環境にしてもらいたい。 ● 環境を基盤とし、日本の工業力や環境技術等を展示・公開する世界一の国際展示場を山梨に造りたい。 ● 大規模な国際展示場を造るのであれば、災害に強いということもキーワードにしてもらいたい。 ● 富士山世界文化遺産の地域内に店舗を建てる場合、景観に合った店構えについて県が指導してもらいたい。 □ 富士山の山開きが山梨と静岡でずれたことで、トイレの問題がでてきた。両県の対応に差があったが、もっと連携して対応してほしい。 □ 都会に住む人や子育て中の人の中には山梨の美しい景観に魅力を感じる人たちもいるので、引き続き市町村と共同で景観事業を進めてもらいたい。 □ 山梨県に住みたい理由として挙げられる環境の良さを保護していくことが重要である。 □ 日本人は景観に対する意識が低い。ビニールハウスもメガソーラー同様景観上問題があり、話題にすべきである。 	

政 策	発 言 要 旨	備 考
<p>○ 他の政策分野に関する、意見、提言</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基盤整備を行った耕作放棄地が、企業だけではなく、就農を希望する若者や個人農業者にも提供されるような施策を考えてもらいたい。 ● 南アルプスのユネスコエコパーク登録について、チャレンジミッションには含まれていないが、こういう明るい話題を入れてもらいたい。 ● チャレンジミッションについて、前向きな明るい事項も入れ込んでもらいたい。 ● リニア中央新幹線について、全国的にも注目を集める事項であることから、県民への情報公開を丁寧に行ってもらいたい。 ● 各施策について、個々の部局の取り組みとなっており、それらがつなぎ合わせてできる全体像が見えてこない。 □ 一般市民が人口減少対策を理解する手立てを講じてもらいたい。 □ 人口減少対策について、へき地医療の充実や婦人科医を増やすといった対応をとっている県もあるので、本県でもそれらを含めた対策を検討してもらいたい。 □ 跡継ぎであっても住みよく仕事がある都市部に出て行ってしまおう。県内に働き場所をつくることを第一に考えるべきである。 □ 県外から来た若年者など人口減少対策のターゲットになる層の意見をどのようにして取り入れるのが課題だと考える。 □ 県内に定住しないのは仕事がないからであり、学生からもその話をよく聞く。 □ 基盤整備について、農家の話を聞き、農政部各所属で連携しながら進めてもらいたい。急な傾斜地を平らにしたことで、道路に水が流れて通行止めになったこともある。無理な基盤整備をしないでほしい。 	

(参 考)

資料No. 2

総合計画審議会部会審議等における発言の要旨

(平成25年12月 第1回部会審議)

(平成26年 5月 第2回部会審議)

(平成26年10月 第3回部会審議)

(基 盤 部 会)

山梨県総合計画審議会

政 策	発 言 要 旨	備 考
1 地域をむすぶ幹線道路網の整備	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新山梨環状道路は利便性が高いので、なるべく早く開通させるべきである。 ○ 非常に難しい仕様である高規格道路の施工を県内業者が行い、高い評価をいただけるようになった。 ○ 様々な制約がある中で計画的に基盤整備を進めていただいている。これからも同様に進めてもらいたい。 ○ 道路等の整備においては、まず将来像を描き、それに向けて政策として何ができるのかを検討してもらいたい。 ● 中部横断自動車道の北部区間のルートに関する情報がほしい。 ● 新御坂トンネルが工事で通行止めになった際、基盤整備の重要性を感じた。 □ 道路は、開通して車が通り物流が通じて初めて効果を発揮するものであるから、交通ネットワークの構築は前倒して実施すべきである。 □ 今年の大雪のような災害が起きた時の山梨の孤立化は避けなければならないので、交通網の整備を急いでほしい。 □ 道路の整備によって福祉や医療に役立ち、魅力的な山梨になって人がやって来る、といった記述にすると説得力を増すのではないか。 □ 人口の社会減を食い止め、転入を促進するためには、企業誘致や教育の充実が必須だと思うが、それらを実施するためにはICや駅からの道を拡幅する必要がある。 	
2 公共交通の利便性向上の促進	<ul style="list-style-type: none"> ○ リニア新駅と甲府駅南口整備との関連について聞きたい。 ○ リニア新駅から世界文化遺産・富士山へのルートの整備を進めてほしい。 ○ 中央線の高速化について、現実的に出来ることが限られていることは理解できる。特急定期券の導入を進めてほしい。 ○ 市町村が運行するバス路線数の達成目標に対する進捗率は高いが、乗車率も検証すべきである。 ○ リニア新駅周辺の開発があまり進められないと聞いたが、新しい駅が出来ればその周辺が発展していくというのは自然の流れではないかと思う。 ○ 山梨県の取り組みは二番煎じが多いが、他に先駆けて進めることが発展につながる。リニアの推進も水資源や自然をまもる方向で進めてほしい。 ○ リニアを大いに活用して観光に結び付けてほしい。また、リニアファンクラブの現在の会員数と活動内容を聞きたい。 ○ リニアについて、ストロー現象を起こさせないためには、駅周辺整備をし、観光とも結び付けることが必要である。30分で行けるからよいという考えには賛同できない。 ○ リニアについて、外国人観光客に配慮した駅や交通網の整備はどのように考えているか聞きたい。 ● リニアについて様々な点で期待を持っている。土地売買をやっているのだから、相談があれば出来る限りの協力をしたい。 	

政 策	発 言 要 旨	備 考
	<ul style="list-style-type: none"> ● リニアについて、盆地の工事であれば地元の建設業者でも寄与できると思うので検討してほしい。また、リニアと中央線の関連も非常に密接であり、中央線の利便性向上に向けた取り組みも先行して実施してほしい。 ● 東京に行く際、電車の本数が少ないので利便性を向上させてほしい。塩山駅に停まらない電車もあるので増加させるよう要望してほしい。 ● 市町村内の移動はコミュニティー・バス等があるが、市町村間の移動は連絡が不便である。その調整等を行う組織はあるのか。また、観光客にとっても利便性の高い公共交通機関の充実を目指してほしい。 ● 日本人より外国人観光客の方が鉄道やバスを利用しているので、事業者による様々な取り組み以上に、県がある程度全体的な交通ネットワーク計画を作成して、進めてほしい。 ● 勝沼からは、リニアが出来ても東京に行くにはバスの方が便利であるが、最終バスの発車時刻が早いのが難点である。また、町内循環バスが観光客にとっては使い勝手が悪いので、甲州市に話をしてほしい。さらに、富士山と甲府盆地を結ぶルートが外国人観光客にアクセス性の高いものとなるよう整備してほしい。 ● リニアの見える化を進めるようJRに相談してほしい。 ● バスをもっと通勤通学に利用してほしい。利便性が向上すれば定住促進にもつながるはずである。 ● 移住を考えている方には、リタイヤ後に車に乗れなくなっても住み続けられるか心配されている方が多い。住民だけでなく総合的な視点で公共交通を考えてほしい。 ● リニア工事の残土処理の方針について聞きたい。 ● コミュニティー・バス等があるとはいっても、バス停のない所に住む老人もいる。市町村がバス事業者と連携を取るとか、老人クラブ等からも話を聞くと参考になる。 ● 公共交通を考える協議会においては、この場（総計審部会）で出たような意見を吸い上げる仕組みはあるのか。 ● リニア新駅と甲府駅とのアクセス整備について聞きたい。 <p>□ ストロー現象を抑制するためにリニア駅周辺の基盤整備は必要である。</p>	
<p>3 交流を支える都市基盤整備の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ リニア新駅と甲府駅南口整備との関連について聞きたい。 ○ 甲府駅南口のバリアフリー化について聞きたい。 ○ 河口湖大橋から富士山を望む箇所で電線が地中化され景観が良くなった。 ○ 甲府駅南口にエクラン以外の新たなエレベーターを設置すべきではないか。 ○ 甲府駅南口でも、歩行者と車の混在を避けるためにデッキを設置してはどうか。 ○ 交差点に信号を設置してもらいたい箇所がある。 ○ 都市基盤の整備については、自動車だけでなく自転車や歩行者への配慮もしてもらいたい。 	

政 策	発 言 要 旨	備 考
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自転車や徒歩で観光地を巡ろうとする観光客のための空間整備を進めてもらいたい。 ○ 県の施策の成果はもっと見える化させる必要がある。 ● 平和通りアーケード撤去にあたって、滑りやすい歩道の改良や周辺の建築物の耐震化、歩道と自転車専用道路等について聞きたい。 ● 甲府駅南口の周辺整備にあたっては、ユニバーサルデザインの観点から障害者団体の方の意見を聞く機会を設けてほしい。南に向かって傾斜があるので店舗の入り口と歩道に段差が生じている。 ● 甲府駅南口のロータリーについて、観光客が増えた場合、貸し切りバスの発着はロータリー外の路側帯で行うことになっているが、よく検討してほしい。 □ 電線の地中化はかなりコストがかかり、ケーブルテレビ業者には負担が大きい。 	
<p>○ 他の政策分野に関する、意見、提言</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地方自治体からの陳情によって、事業の優先度が変わるのか聞きたい。 ○ 成果については、何を作ったかではなく、その結果どうなったかを記載すると、大きな成果が得られたことを実感できる。 ● 富士山世界遺産登録、和食の無形文化遺産登録、東京オリンピックといった状況の変化を踏まえ、山梨の中だけの視点で物事を捉えるのではなく、日本や世界に目を向けた考え方を持つべきである。 ● 県も世界や日本の中の山梨を意識して長期的な見通しを立てていると思うが、なかなか一般の県民にはそれが伝わりにくいので、そういったポイントを明確にして計画を推進していくべきである。 ● 山梨は空き家率が高いが、それだけ社会資本の中古住宅があるということであり、県外からの移住希望者と空き家の提供者に対する施策がもっと必要である。 ● 東京オリンピックの影響で人材不足や資材の高騰があり、入札不調になるような事態が実際に生じているのか聞きたい。 ● 仕事が減ってきた時代に職人が跡継ぎを作らなかつたり会社を縮小気味にしたりということがあった。魅力ある建設業界にし、きちんと日本人の若者を育成して良い物を作れるようになってほしいと願っている。 □ 人口減少抑止（インフラ整備等）や地球温暖化の進行（メガソーラーといった再生エネルギー発電施設の建設）、ICT利活用に基盤部会としてどのような貢献ができるか聞きたい。 □ 人口の減少について、若年層の縮小は建設業界にとっても切実な課題である。また、中央線沿線の山梨では、東京の高齢者の受け入れも検討課題となろう。 □ 山梨は雇用の場のバリエーションが少ないので、雇用促進や企業誘致で取り組んでいることがあったら聞きたいし、取り組んでいないのであれば推進してほしい。 □ 太陽光パネルの設置によって、景観よりも農業面積の減少が問題である。東京から近いという地の利を生かした大胆な農業施策を展開することが必要である。また、高齢者が働ける場として甲州ブドウの栽培がよいのではないか。さらに、ビジネスインダストリー、地域資源を活用した観光に力を入れてほしい。 	

政 策	発 言 要 旨	備 考
	<p><input type="checkbox"/> 人口のストロー現象を抑制するために、甲府駅南口だけでなく全県的に景観の質を向上させてほしい。「山梨なのにすごいね」と言われるようなものをつくらないと、定住人口確保にはつながらない。</p> <p><input type="checkbox"/> 県外の人を呼び込むのもよいが、在住の子どもに地域の魅力を伝えることにも力を入れてほしい。</p> <p><input type="checkbox"/> 太陽光発電が普及しているが、電力会社に電力を買い取ってもらえなくなっているという話を聞いた。電力会社に余剰電力を送電できるようなネットワークを構築してほしいと思っているのだが、国に対して県はどのような話をしていってもらえるのか。</p>	

(参 考)

資料No. 2

総合計画審議会部会審議等における発言の要旨

(平成25年12月 第1回部会審議)

(平成26年 5月 第2回部会審議)

(平成26年10月 第3回部会審議)

(安心安全部会)

山梨県総合計画審議会

政 策	発 言 要 旨	備 考
<p>1 安心して暮らせる地域福祉の推進（長寿・障害）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国の法制度が整ったうえば、幸住条例の見直し作業にできるだけ早い機会に着手してもらいたい。 ○ 「地域全体で介護を支える体制づくりへの支援」について、「介護」という言葉では狭い気がする。できれば「生活」という言葉に変えた方が、横断的な内容が盛り込まれてくるという印象を受けた。これから先の計画を作る際もそういう工夫ができればと思う。 ○ 「介護」、「医療」、「看護」を分けず、「生活」すると、日常の地域社会生活では、地域に住んでいる全ての方々が介在することになる。 ○ 生活支援において、介護保険法以降、支援が必要なことと必要でないことを、分けることが難しい中でも何とか分けてきた。そして、経済的支援を受けなくても生活そのものが自立できる方々は、やはり自助のもとで生きてきた。そういうことが介護保険法の基礎であり、医療法の基礎であると思う。 ○ 県版障害者ジョブコーチができたこと、就業支援センターがあること、障害者就業・生活支援センターができたこと、こういうことで障害のある方達が家にこもらないで外に出るための橋渡しができたと思っている。 ○ 就労については、法定雇用率が2%になったこともあり、この数字を上回るような施策を是非お願いしたい。また、なかなか自分から発することのできない要援護者、障害者を、何らかの形で援護する橋渡しの施策が必要だと思う。 ○ 福祉分野の活動においては、県社協や地域の市町村社協、様々な団体など、全てが連携を取らなければならないのではないかな。 ○ 認知症サポーターや地域防災リーダーなどは養成だけではなく、今後の展開も検討していくべき。 ○ 元気なシニア層の活用を考えるべき。例えば、シニア層の縦割りで活動を、シニア層の集まりに集約して組織だてを行い、老朽化した橋やトンネルの住民目線でのパトロール、認知症の方への支援、一人暮らしの見回り・支援、配食弁当ボランティアなどの活動を行ってもらおうなど。 ○ 自治会の結束力の低下も問題視されている。地域に住む者として、「どう連携し助け合っていくのか」を考えなくてはならない。このため、定年退職した方々に、小学校の入学と同じような感覚で集まることのできる集団を作り、利害関係のない人のリーダーシップで何らかの行動を起こさせる場所があったらよいと思う。 ○ 心豊かに暮らせる山梨で、健康寿命をさらに伸ばすような健康づくりが望まれる。例えば、お年寄りへも配慮した公園の整備などが必要ではないか。 ● 重度心身障害者医療費助成の自動還付方式への移行についての説明が、障害当事者や家族に行き渡っているのか。円滑な移行ができるような形をとることが必要である。 ● 県営住宅等における高齢者の孤立、孤独、孤立死等がこれからの大きな課題である。今後の地域医療および地域ケア体制の確立の中において、大きな県営住宅の何棟かを一つの地域と捉え、高齢者の孤立等がないよう包括的支援をしていただくことをお願いする。 ● 自殺予防対策に関しては、日常生活の中での見守りとか、また支えとか、一人じゃないというような周囲の方々の心の醸成も並行して必要である。そういう気運を温かく高めていくというような広報も必要ではないかと感じている。 ● お年寄りが多くなっていく社会。高齢社会の中のお年寄りは、やはり暮らしやすさ日本一の県であってほしいと思っている。 	

政 策	発 言 要 旨	備 考
	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域のリーダーとか、役職とか、そういう形式の垣根を越えて、困っている方がいれば、それに対応する知識や、技術を持っていれば、それに対応していこうではないかというようなことを、私たちはこれからも活動の基本にしている。それが、昨年度から言われているソーシャルキャピタルの最たるものではないだろうか。 ● 社会保障制度改革への対応について、生活困窮者自立支援法等の制度が色々出てきているが、最終的に実効性を上げるのは、地域コミュニティの復活である。これが必要だと思っている。どんな制度を設けても、最終的にはコミュニティを強化することだと思うので、学校教育から始まり、国家的な議論をぜひ進めていただきたい。 ● 認知症支援対策及び啓発啓蒙活動の強化は、喫緊にして重要課題ではないか。 □ 地域包括ケアシステム構築のために社会福祉協議会をぜひとも利用していただきたい。 □ 地域包括ケアシステムについては、各地区医師会の中に地域包括ケアシステムの拠点となるようなものを整備したい。 □ 地域包括ケアは、医療と介護をつなぐというより、医療と介護の統合というイメージではないか □ 地域包括ケアセンターと医師会との連携だけではなく、もっと民間の人材や職能団体の職員が連携していかなければ、うまくいかないのではないか。 □ 総合計画実施状況報告書は、事業ベースの話である。地域包括ケアシステムの問題等については、事業ベースの周辺の話はどうつなげるかという話である。その周辺の話を実行計画に盛り込む必要があるのではないか。 □ 富士河口湖町の地域包括ケアセンターの職員は3人で、今県が描いていることを行うことはかなり難しい。そう言った時の県の関与はどうなるのか。県の主導がないと、ひとつひとつの地域包括ケアセンターの規模が小さいので、そこに任されていくのは非常に厳しい。 □ 高齢化が進む中で、老人介護や認知症を抱える家族は、自分の仕事を辞めて、介護しなくてはならないので、なお一層介護事業等の取り組みを推進していただきたい。 □ 自殺防止対策について、青木ヶ原樹海での自殺はいろいろな問題があるので、専門性を持った方々とボランティアとが連携を深めた中での活動を行う必要がある。 □ 施策の工程の中に、障害者及び高齢者の虐待事案が入っていない。児童の場合は、事案の中身を精査するのに48時間という時間がある。高齢者も全く同じであるが、果たして本県で、48時間で高齢者の虐待の事実関係の体制が整っているのか心配である。虐待については、児童と障害者と高齢者全て報告するのがよろしいのではないか。 □ 若者を介護に就労させる労働環境を整える方向で介護を考えていただきたい。 □ 健康寿命の延伸について、さらに伸ばしていく対策に力を入れていただきたい。健康なお年寄りや要支援のお年寄りの支援が手薄いと思われる。 □ 認知症の予備群に対して、認知症サポーターを養成しただけではやはり予備群を改善できないので、本人にアプローチしなくてはいけない。 	

政 策	発 言 要 旨	備 考
<p>2 県民の豊かな生活を守る保健医療の充実（医務課・健康増進課）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今年4月から、富士・東部口腔保健センターを整備し、障害児や障害者の治療、摂食障害の指導なども行っているが、これから先、更に充実させる必要がある。 ○ 在宅医療の情報などを、インターネットを使えない高齢者等にPRする方法を県や各市町村で考えてほしい。 ● 産後ケアセンターについて、体が弱いなど、他と違う状態の子供をケアすることも考えていただきたい。 □ がん患者の口腔内をきれいにする実践・実務の管理を医師と一緒に歯科医が出来る体制が必要ではないか。 □ セルフメディケーションについて、一定の部分については、専門家に任せないと、安全な医療確保ができないため、患者を犠牲にしてまでもセルフメディケーションを勧めることがないよう十分配慮する必要がある。 	
<p>3 あたたく多様な子育て支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 生涯独身の人が非常に増えていることには、色々な要因がある。結婚に対してどう思うのか、その認識がすごく薄くなっている。生涯独身でも平気という人が多くなっている。若者の結婚を支援するには、やはり女性も男性も結婚に対してどういう認識なのかということ調べて、男女共に働きかけなければいけないと思う。 ● 世帯を持って、社会の一構成員として家族をしっかり守り、作り上げていく。それは男性だけでなく、女性もそうだという認識が非常に薄くなっている。そのことを考えて、どこにどういうふうに働きかけていったらいいかということを考えなくてはならないと思っている。 ● 少子化対策は、将来も山梨県として存続できるかどうかという、本当に大きな課題だと思う。人口も減少傾向にある。人口の減少に歯止めをかけるには、次の世代の若者の役割が大事である。少子化対策を一つ一つを着実にやっていきたい。 ● 本県は男性の育児への参加が進まない県である。妊娠中は手を差し伸べているのに、いよいよ生まれた後のところで手を引いてしまう。やはり働く場の理解とかがあるのではないかと、ぜひその点も追跡していただきたい。 ● 一人の男性が、一人の女性との恋愛や夫婦生活の中において、子育てというものをどういうふうに考えていくかということが必要である。優良企業の中で戦士として働いている男性達に、日本の経済界を担っている男性に聞く意識だけではなく、一家庭の中で、家族として、家庭の中の夫婦としての男性の意識に対し、子育てはどのようなものであるかということを開いてみるという意見は本当に素晴らしいと感じた。 ● 統計的に発表されるということもあるかもしれないが、ここ近年DVが多いとか、ストレスを抱えている方がとても多いと感じている。最終的に行き着くところは、心の問題とかというようなことになると感じた。 ● 昔だったら恋愛するのは普通で、じゃあ一緒に住もう、じゃあ結婚しよう、そろそろ子供も欲しいねというのが、自然の成り行きだった。今は昔と何か違うのではないかと。 	

政 策	発 言 要 旨	備 考
<p>4 大規模地震・富士山火山防災体制の強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 発災時の災害弱者については、名簿の整備がかなり進捗していると思うが、提出済の市町村の名簿では、残念ながら要支援者の自主的な申告及び記載が1～2割に滞っている。 ○ 災害時要援護者は、自分から社会に対して、私はこういう状況下にあるので、地域社会の皆さんにも支援をお願いしたいとPRしなければならない。 ○ 自主防災組織や自主ボランティアなど、地域で様々な活動をされている方々がいるが、こうした人達と地域防災リーダーの人達が連携をする中で、より地域の人達の防災意識を高めていくことが必要ではないかと思う。 ○ 災害というものは防ぐことはできないが、日常的に訓練をすることによって、最小限の被害に食い止めることができる。取り組みを進めることにより、防災意識が高まってくると思うので、山梨県の防災については、災害から県民の生命・財産を守るため、がんばってもらいたいと思う。 ● 山梨は観光地も多いので、自然災害発生時に、観光地において大勢の帰宅困難者が見込まれるという想定の中で、対応策について検討する必要があるのではないか。 ● 豪雪災害について、帰宅難民となったが、道路機関の情報が全く入ってこなかった。県外の人たちにも全然情報がない、どうなっているのかという声がたくさん出た。私は消防団もやっているが、そういう関係者にも全然情報が入ってこない。どこの道路が通行止めだという情報が全くなかった。対策をどのように考えているのかお聞きしたい。 ● 今回の大雪の時も、民生委員が高齢者等の安否確認をしたり、福祉施設の関係者が施設や利用者の状況を確認したり、援助・援護活動をしたことについて、よく検証していただきたい。 ● 社会福祉協議会の立場からすると、災害時に、民生委員等が高齢者等の安否確認のために無理をして危険な所へ行くことがある。そういう方たちの生命・身体の危険への配慮をお願いしたい。 □ 災害情報等の危険箇所の発信について、インターネットは、不特定多数の方には有効だと思うが、高齢者が多い山間地においては、災害情報を速やかに伝えるため、アナログ型の情報通信についても充実させる必要がある。 □ 災害情報については、警戒情報が携帯電話に受信次第、消防は、パトロールをして呼び掛けを行うが、夜間の山間地でのパトロールは、地滑りや崖崩れ等2次災害の恐れがあり、パトロールが困難なケースがある。県はきめ細かに消防と綿密な連携を取り、素早い対応により減災につなげる必要がある。 	
<p>6 誰もが快適で安全に暮らせる社会づくりの推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 講習会に参加した自主防犯ボランティアが182団体とあるが、各地で防犯団体を作っても、山梨県全体としての繋がりが見えてこない。 ○ 向精神薬、麻薬、覚醒剤、脱法ドラッグ等がインターネット上で売買されているので、サイバーパトロールを増員し、取締りを強化する必要がある。 	

政 策	発 言 要 旨	備 考
<p>○ 他の政策分野に関する意見、 提言</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事業の成果として示された数値の妥当性の検証と残された課題を明確にすべき。 ○ 環境汚染に繋がる工業誘致は控え、健康に留意した食材や食品づくりに重点をおくなど、健康を重視し、健康に貢献できる環境は、これからは贅沢な環境となっていく。 ○ 武田神社の周辺に憩える場所がない。神社北側の自然豊かな場所を少し開拓して、集い、休憩できる場所があったら良いと思う。 ○ 県内のお年寄りの観光向けのコースを開拓しても良いのではないかと思う。企業が行う営利目的で採算が取れないとすぐに打ち切られることのないよう、これらの企画・実施は県の観光部が実施する。 	

(参 考)

資料No. 2

総合計画審議会部会審議等における発言の要旨

(平成25年12月 第1回部会審議)

(平成26年 5月 第2回部会審議)

(平成26年10月 第3回部会審議)

(産 業 部 会)

山梨県総合計画審議会

政 策	発 言 要 旨	備 考
1 成長分野への参入と新産業の集積	<ul style="list-style-type: none"> ○ 企業誘致に対する補助金は設けられているが、企業流出を防ぐための施策の検討もお願いしたい。 ○ 山梨のものづくりというのはこんなにすごいということを山梨から全国に、世界にPRしたいという思いで我々は取り組んでいるので、ものづくり環境が整ってくれればと願っている。山梨のものづくり企業が元気に力を発揮できるよう我々も頑張るので、県にも見える形で支援をお願いしたい。 ● コミュニティービジネスは、社会の問題を事業にしていける新事業・新産業の創出として一つの切り口になるのではないかと考える。農政部や産業労働部と連携することや、耕作放棄地を使いながら観光と絡めることで新産業の創出につなげることができる。 ● 事業への支援を受ける際には計画書が必要であるが、突発の案件が生じた場合、計画書を作成できず、支援を受けることができない。突発な案件に対応できる支援策を検討していただきたい。 	
2 成長分野を支えるプラットフォームの充実	<ul style="list-style-type: none"> ● 山梨大学や産業短期大学など山梨県内の大学と連携することは、学生にとって山梨を知る良い機会になると思う。外国の方が多く訪れる東京オリンピック・パラリンピックを契機として、ユニバーサルデザインを活用することで、ユニバーサルデザインのピクトグラムを発信県として山梨県を大々的に伝えることができる。 	
3 やまなしブランドの確立	<ul style="list-style-type: none"> ○ 30～40代を対象にしているビタミンやまなしについて、成果とウェルネスツーリズムとのタイアップについて聞きたい。 ○ 長野県は葡萄酒業者の育成やワインの輸出に力を入れている。県や事業者頑張ってもらいたい。 ○ 県産品の振興を図るため、県産のワインや日本酒で乾杯する習慣をつけることは大切なことだと思う。 ○ 長期的視野に立ち、山梨ファンをつくる様々な施策を部署に関係なく検討していただきたい。 ● 山梨県は桃源郷と言われるように、農家の方への支援をお願いしたい。 	
4 地域経済の活性化と雇用の安定	<ul style="list-style-type: none"> ● 海外展開の支援については、行政としてもカントリーリスクに対応できるよう今のうちから対処した方がよい。 ● 山梨県がエントリーした雇用促進関係の施策について状況を教えて欲しい。 ● この計画の中にM&Aの発想がない。悪いイメージではなく、今あるものを次につないでいく支援を計画の中に入れて欲しい。 	

政 策	発 言 要 旨	備 考
<p>5 未来の農業を担う担い手の確保と高収益農業の実現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 農業の6次産業化について取り組み状況を教えて欲しい。 ○ 山梨には多くの農畜産物がある。これらを山梨の食としてPRすれば良いのではないか。 ○ 中国の一般家庭にもワインが入ってきている。中国の中・小規模のまだ開拓されていない都市で、山梨のワインや果物を売り込んではどうか。 ○ 5年、10年、20年という長期的視野に立ったサポートが必要ではないか。 ○ 新規につくり出すのではなく、既存のものをプロモーションしていくことを考える必要がある。ぶどう畑の景観に配慮し、ぶどう畑の横にソーラーパネルを建設しないほうがいい。農業比率について、全国で1番になれるような農業のあり方を考えていきたい。また、ワイン産業の収益性を高めるような観光も考えて欲しい。 ● 富士山の世界遺産登録やリニア開通により、外国人観光客の増加が予想されるため、果物の直売に力を入れるべきだと思う。 ● 平成26年2月の雪害に対する支援を、平成26年度だけではなく2、3年延ばしていただくよう県にお願いした。 ● 山梨県で美味しい果物が生産できるよう有利販売をしていく方法を考える必要がある。 ● フランスでは葡萄畑が世界遺産になった地域があり、その地域では、農地の横にソーラーパネルは設置されていない。景観に配慮し、葡萄畑がきれいであることが人を呼ぶ。「今あるモノを大事にする」という本質から離れず、本質的なところから行動していくことが山梨の理想だと思う。 ● 今回の雪害（平成26年2月）で、ハウスを残した農家、潰さなかった農家に対して支援をお願いする。 □ 未来を支える多様な担い手づくりの推進に関して、248人が新規に就農しているが、年齢と県内外の内訳を教えてください。 □ 現在、14ヶ国にワインを輸出している。日本でワインを醸造していることを知らない国に輸出する場合、メーカーとしては価格を下げるなど努力が必要であり、県と協力して海外でブランドを定着したい。 □ 知事及び農政部長から平成26年度2月の豪雪被害における複数年の支援を国に要望していただき感謝する。（廣瀬委員） □ 東南アジアに果物を輸出した場合、高価格で販売できるメリットがあるが、品質管理が難しいデメリットもある。今後も、果樹王国やまなしの推進のため、指導をいただきたい。 □ 地（知）の拠点整備事業として、やまなしブランドの食と美しい里づくりに向けた実践的な人材の育成に取り組むとともに、地域（県）と大学が協力して農業振興を推進していく。 □ ワインの世界展開に向けて、ワインにおける人材育成を目的に、ワイン・フロンティアリーダー養成プログラムに取り組んでいる。大学の力を生かして、県の農業振興に貢献したい。 	

政 策	発 言 要 旨	備 考
6 中心市街地の活性化と商業の振興	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中心市街地における歩行者通行量を5,000人増やすことは容易ではない。 ○ 甲府市の中心街は若者から見ても活性化が必要であると感じる。県は、新しい店舗や人を育成して新しいものに変えていく方向で考えているのか。 ○ 商店街の店舗は住宅も兼ねているため、店舗だけを貸すことは難しい。 ○ 甲府市の中心市街地活性化基本計画について、県では規制を緩和するなどの取り組みを行っているが、どの程度関与する予定なのか。 ○ 甲府市の中心市街地商店街以外の市町村にも支援をお願いしたい。 ● 防災新館のイベントと中心市街地の活性化に向けた取り組みはリンクしているのか。また、甲府市とどのようにタイアップしていくのか。 ● 甲府の市街地活性化については、県だけではなく民間と一緒に働いていく姿勢が大事である。 	

基本目標3 「ウェルカム、おもてなし」チャレンジ

○第1回部会 ●第2回部会 □第3回部会

政 策	発 言 要 旨	備 考
<p>1 地域のおもてなしの向上と地域資源を活かした観光の振興</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 富士山が世界文化遺産に登録されたが、ただ登山するだけの対象ではなく、色々な見せ方を慎重に考える必要がある。 ● 災害などの状況においても、お客様に対して一番のおもてなしを考えれば、次の観光につながる。 ● 縦組織で横のつながりがうまくいくのか心配している。特に、空き家の課題に関して、観光分野と農業分野で連携が図られているか。 ● 外国人の誘致を積極的に行うためには、道路標識や観光案内標識に英語表記を追加する必要がある。 ● リニア見学施設には、はっきり分かる外国語表記をお願いする。また、県全体で外国語表記の取り組みを共有して欲しい。着地型観光の視点が少ないのではないか。本県を訪れる国内外の観光客に、県内で十分楽しんでいただけるよう、着地型観光への工夫と取り組みが更に検討されるべきであると思う。 ● 南アルプスの林道の開通を10日くらい早めて欲しい。 ● 外国人観光客も含め県内を訪れる方々に対する安全対策の検討をお願いしたい。今後、想定される災害への備えとして避難対策等の検討が必要である。 <p>□ おもてなしは、お客様を増やすことが目的であり、子どもや中学生、高校生は未来のお客様である。将来の観光につなげるため、スポーツ施設の充実や子どもにとって良い思い出づくりとなる環境の整備が必要である。</p>	
<p>2 やまなしの魅力発信と多様な交流の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ ネットやメールマガジン、中国語の観光専用サイトなどを活用した取り組みは良いと思う。また、留学生は帰国した後、大きな情報の発信源になると思う。四川省だけではなく、友好都市の締結に力を入れても良いと思う。 ● 行政PRや公共施設の利用に関して前例がないという考え方ではなく、柔軟な発想をもっていただきたい。 ● ICT活用に関して、海外への情報発信が少し弱いのではないかと感じる。海外に情報を発信する場合、ホームページも良いと思うが、山梨県に在留する外国人を活用すべきではないか。各大学の留学生を50名登録してもらい、山梨県の通訳ガイドバンクを作ってはどうか。 ● 留学生に限らず、在住の外国人の方や日本人と結婚された方も通訳ガイドとして登録していただけたらと思う。観光においては、宣伝は重要であり、宣伝の仕方について工夫を要する部分があるのではないか。 ● 県と市町村がタイアップしながら通訳の登録に取り組む必要がある。 <p>□ 「花子とアン」の放送による効果を教えて欲しい。</p> <p>□ 観光庁は、本年の外国人観光客を1200万人と見込んでいる。外国人観光客が山梨県を訪れていただけるようPRが必要である。中国では、テレビの影響が強いので、富士山と温泉のドキュメンタリーを制作してはどうか。また、中国から日本への旅行者は、富裕層やビジネス関係者が多いので、観光客としての位置付けではなく、観光と山梨ブランドとのユニットが必要である。</p> <p>□ 山梨県在住の外国人を活用する必要がある。</p> <p>□ 今後、外国人観光客が増加する見込みの中で、通訳案内士を早急に養成する必要である。また、山梨県だけでも案内できる通訳案内士の養成が必要である。</p>	

政 策	発 言 要 旨	備 考
<p>○ 他の政策分野に関する、意見、提言</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 数値目標が妥当か否かを判断するため、現状や実績に係る資料を示して欲しい。 ● 富士山に関して、夏山対策は非常に取られているが、冬山登山の対策を今後どのように考えているか意見を聞きたい。 ● 山梨県の人口を増やすために、インフラの整備をどのように考えているか教えていただきたい。また、インフラ整備に関する県の考え方や整備状況を県民または全国に発信していかなければならない。 ● 富士山がよく見えるように森林を整備することは良いことだと思う。 ● 電線地中化工事は、景観を良くする上では、高い優先順位で実施していただきたい。 ● 県の防災アクションプランに「在県外国人」についても明記するよう検討をお願いしたい。 □ 施策にはメリハリが必要である。施策の優先順位とその理由を教えて欲しい。 □ 超伝導等による電力貯蔵技術実用化の推進について、4億45百万円のうち4億円繰り越している理由及び県とNEDOの予算負担について教えて欲しい。 □ 地方公共団体は、原則、予算を単年度で執行しなければならない制約がある中で、観光部においてはニーズに合わせ、事業に優先順位を付けて集中的に執行する必要がある。 □ 女性の働き方が変化しているため、女性の起業に対するサポートや子育てとの両立など女性が働きやすい環境を整備する必要がある。 □ 補助金が終了しても継続的に支援をお願いしたい。 □ 地方創生については、全国各地で取り組んでいる事業ではなく、対象を絞り、山梨県の地理的優位性を生かした独自の事業を検討して欲しい。 	

総合計画審議会部会審議等における発言の要旨

(平成25年12月 第1回部会審議)

(平成26年 6月 第2回部会審議)

(平成26年10月 第3回部会審議)

(教育文化部会)

山梨県総合計画審議会

政 策	発 言 要 旨	備 考
<p>1 豊かな個性を伸ばす教育環境づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教育は人づくりであり、教師と児童・生徒、保護者、地域の方々の連携が重要である。 ○ 少人数教育を進めていく上で、教師側からの一方通行の教育ではなく、双方向の教育をいかに進めていくかが重要である。 ○ 少人数教育の拡充について、国ではなかなか進まない中、県が先駆けて実施していただきたい。 ○ 学校現場として、スクールソーシャルワーカー（SSW）が配置されていることによって、非常に効果が上がっており、助かっている。 ○ 学校にはいじめなど様々な問題があると思うが、学校と地域と家庭とが連携した地域教育に力を入れてもらいたい。 ○ 海外派遣経験のある英語教員などを中心に、グローバル化に対応した人材を山梨から輩出するよう取り組んでいくことが大事である。 ○ この度、和食が世界文化遺産に登録された。食育運動の推進の中で、和食の良さを若い人たちに伝えていく必要がある。 ○ 県央地域と同様に、県境に近い地域に対しても特別支援教育の充実を希望する。 ○ 学校カウンセラーなど心理面でのサポート環境の更なる拡充を図り、不登校児童・生徒数の更なる縮減を期待したい。 ● 少人数学級を全国に先駆けて実施していただいた。そのような環境が整ったところで、私ども教師も学力向上に向けて、取り組みを進めていきたい。 ● 少子高齢化が進展する中、教育において市民性を育てることが課題であり、単なる職業教育に留まらないキャリア教育が重要である。 ● キャリア教育において小・中・高の連携が非常に大事である。ただ、インターンシップができる施設が本県はなかなか少ない状況なので、開拓をしていただきたい。 ● 県の定住化促進のためにも教育がとても大事だと子育て世代は感じている。学力向上が図れるのではないかと期待感、住む場所を考える中で、本県を選んでもらえる一つの選択肢になるのではないかと。 ● 土曜日等を活用した補習的な学習が始まったが、土曜日の活用は非常に気になる場所であり、うまく活用してもらいたいと思っている。 ● 教育・文化の様々な課題について、小・中・高・大が連携をして、地域に関心を持ち、自分たちが地域を支えているような教育をもっと体系的に進めていかなければいけないと考える。 ● 小学生、中学生のキャリア教育というのは教育面だけではなく、市民性を育成する面も重要である。 ● 一概に教で学校統合を進めるのではなく、そこを志望する児童がいる限りは、学校には地域に残ってほしいと思うし、その中で特色ある授業を進めてほしいと思っている。 ● 若い人が自分たちの生まれた地域をこれからどう支えていくか意識を持つような教育も必要ではないかと思う。 ● 企業側の立場で言えば、インターンシップを受け入れるのは非常に大変である。仕事の体験だけでなく、企業見学や企業説明会、OB訪問などもインターンシップとして含めて捉えて、取り組みを進めてもらいたい。 	

政 策	発 言 要 旨	備 考
	<ul style="list-style-type: none"> ● 教育のあらゆる面で少子化の問題が大きいということをぜひ子供達にも伝えていただきたいし、教職員自らも少子化に対し関心を持っていただきたい。 ● 障害がある方が高校を卒業した後の生活において、福祉や就業面で専門的な支援が受けられるような取り組みを期待する。 ● 職業教育を行う新しい高等支援学校が開校するが、卒業生が就職できる職場開拓を期待する。 ● 地域で何かしようと思っても子どもが集まらない。学校においても地域教育へ力を入れていただきたい。 □ 学力向上は、児童・生徒、教職員、保護者、地域住民共通の願いであることは言うまでもない。教育現場で実際に児童・生徒に学習指導を行う者として、指導にあたり学力向上に貢献したい。 □ 今後教育の中身が相当変わっていくだろう中で、グローバル教育をどうしていくか非常に気になる場所である。 □ 企業側として採用活動する中で、企業が求めている人材に自分を磨いていくという視点に欠ける学生が多いことが気になる。そのような視点も教育の視点で取り込んでもらいたい。 □ 県境など支援が届きづらい地域においても必要な特別支援教育が受けられるような予算の充実を希望する。(笠井委員) □ 学校カウンセラーなどのニーズはもっと多いと思われる。不登校の児童生徒などに対する相談体制の更なる充実を期待する。 □ これからも学校が子供達の味方を育てる一翼を担い、地域と一体となって食育活動を進めていってほしい。 □ 防災・減災に対する地域の活動が活発化している中、学校においても地域と積極的に交流し、様々な災害に対する防災力の強化について教育に取り入れてほしい。 □ 「生きる力を育む体験活動」として高校において多くの事業が実施されているが、小中学校でもこのような体験活動事業をもっと充実してほしい。 □ 青少年体験活動に参加した生徒が、活動後、参加していない生徒に対して自分が体験してきたことを伝えられる機会があればいいと思う。 	
2 生涯を通じて学ぶ環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学生などが地域の中で、様々な角度からアイデアを提案したり、活動を行う「若者による地域活性化プロジェクト」のような取り組みは重要である。 ○ 「若者による地域活性化プロジェクト」のような学生を支援する取り組みは、魅力的であり、PRをもっと行えば活性化につながると思う。 ○ 子どもの体力低下対策として、本県の豊かな自然を生かした子どもの遊び場づくりなど環境整備を図ってほしい。 ○ 新しい県立図書館が開館し、多くの利用者があるが、今後も子供達が学習できる場の提供に努めてほしい。 ● 高齢化が進む中、生涯学習の充実が重要である。 ● 放課後や土曜日の子供達の過ごし方について、地域の力を借りながら、本県ならではの体験型の自然体験であったり、赤ちゃんの抱っこ体験であったり、何か学校では学べないようなことをプラスでやったらどうか。 	

政 策	発 言 要 旨	備 考
	<ul style="list-style-type: none"> □ ここ数年、学校応援団などの事業を通じて、学校を支える地域の人々のネットワークの広がりを感じている。 □ 郷土学習の取り組み推進により、子供達の中に郷土への関心が高まっている。これをより定着させていくために体系的な郷土に関する教育が必要である。また、グローバル教育を進める上で、例えば郷土学習教材を英語で翻訳したものを英語の授業で使うなどの取り組みも考えられる。 	
<p>3 芸術・文化・スポーツの振興</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高齢化社会の中、スポーツでいかに元気な高齢者をつくっていくかを目指す上で、スポーツ・レクリエーション祭を更に強化し、活用してもらいたい。 ○ スポーツも文化の一つである。ヴァンフォーレ甲府は山梨の誇りであるため、ヴァンフォーレ甲府の試合を子供達みんなで見に行く機会などをつくったらどうか。 ○ エンジン01のような県内外において第一線で活躍している方々の話を聞くことができる機会を今後も継続して設けてほしい。 ○ 芸術文化の分野で様々なイベントを開催しているが、できれば各県立施設のイベント案内を保育園や幼稚園を通じて配布してほしい。 ● オリンピック・パラリンピックを通じて、多様な種目に触れることができるこの時期こそ、県民が市民スポーツを意識するのに絶好の機会ではないか。 ● 学力だけに傾注するのではなく、心と体の教育も並行して重視していただきたい。 ● 学校の統廃合に伴い生じた空き校舎や体育館を、市民スポーツ啓蒙や地域スポーツの発展に活用できるようにしていただければありがたい。 ● 学生や子供達だけでなく、親子で参加できるような文化のイベントがあると盛り上がると思う。 ● 暮らしに根差した県民目線の文化と全国や世界へ発信し山梨の価値を高められる文化を層別し広めていくことにより、県民の生涯学習の機会になると同時に、観光面でもメリットが期待できる。 □ 博物館等において、従来の展示物を見るだけのものだけでなく、活動型のプログラムを取り入れたり、漫画展など堅くないテーマを設定したりと県民に親しまれるような指向性が感じられる。 □ 地域スポーツが生き抜いていくために、行政主導ではなく、自主自立の意識をしっかりとって活動していけるよう取り組んでいきたい。 	
<p>○ 他の政策分野に関する、意見、提言</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 男女共同参画の面から、デートDVの講演会を私立高校で実施したが、この取り組みを県立高校にも広げていきたい。 ● 男女参画の推進を行う上で、学生を通じて、何か発信していければいいと考えている。 	

総合計画審議会部会審議等における発言の要旨

(平成26年 1月 第1回部会審議)

~~(平成26年 5月 第2回部会審議)~~

(平成26年10月 第3回部会審議)

(行政改革特別部会)

山梨県総合計画審議会

基本目標 7 「改革続行」 チャレンジ

○第1回部会 ●第2回部会 □第3回部会

政 策	発 言 要 旨	備 考
1 持続可能な財政の運営	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県債残高の削減内容については県民が注目しているところなので、削減額の内容や、削減の仕組みを明らかにするなどして丁寧に説明する必要がある。 ○ 公共事業の減少に伴い建設会社等の職人も減っており、事業が進まないところもある。労務単価などを見直す必要がある。 ○ ふるさと納税については、目的を指定できるため、納税者とすれば、その目的の予算が増えると考えはせず、そうではないとすれば、納税者の期待とは異なると思う。 ○ ふるさと納税が納税者の希望する目的どおりに使われているか疑問があるため、活用内容をアピールすべき。また、1万円の納税に対して3千円のプレゼントをするような手段ではなく別のアピールを検討すべき。 □ 県単独補助金を見直す際には、単に廃止・縮減するだけでなく、県内の経済活性化のために必要な補助もあるという点も考慮し、適切に行ってほしい。 □ ふるさと納税の額を増やすための手法をさらに検討する必要がある。 □ ふるさと納税について、県への寄附額と県税からの控除額を踏まえ、しっかり分析をした上で、今後制度をどう活用していくのかを検討すべきである。 □ ふるさと納税については、県の宣伝になり、リピーターになってもらえるよう検討し、PRしてほしい。 	
2 効果的・効率的な行政運営	<ul style="list-style-type: none"> ○ 職員数の管理について、県民サービスを高めるために増員した部門と減員した部門を県民に分かりやすく説明してほしい。 ○ スキルを持った職員を養成することにより、職員数の適正な管理につなげる必要がある。 ○ 限られた職員数で行政サービスを行うことを考えると、県職員が主体で運営している県出資法人について見直す必要がある。 ○ 職員の異動サイクルを長くして習熟化を図ることにより、業務を効率化する必要がある。 □ 既存の事業は、県庁内だけでなく、国、市町村及び他団体等の実施状況も踏まえて再検討すべきである。 □ 知事部局と教育委員会には組織や事業内容に重複するところがあるため、目的や対象者が同じ場合には事業の統合も検討する必要がある。 □ 職員数が削減されているため、組織改革の面からも業務改善をさらに図るべきである □ 本庁と出先機関の人事交流だけでなく、他の自治体との人事交流を推進する必要がある。 	

政 策	発 言 要 旨	備 考
3 県民サービスの向上	<input type="checkbox"/> 県政ひざづめ談義の場での意見が、県の施策・事業にどのように反映されたかを分かりやすく示してほしい。	
○ 他の政策分野に関する、意見、提言	<input type="checkbox"/> 法定ではない審議会については、有効性を考慮しつつ数を減らすことを検討する必要がある。 <input type="checkbox"/> 行動計画全般にわたり、より多くの目標を数値化する必要がある。	